

	<p>・机上配布資料3：バスに関する注意喚起パンフレット</p> <p>※机上配布資料2については中部運輸局愛知運輸支局、机上配布資料3については公益社団法人愛知県バス協会から提供</p>
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	2人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1	開会
2	委嘱状交付
3	<p>市長あいさつ</p> <p>市長よりあいさつ。</p>
4	委員自己紹介
5	<p>会長の選出</p> <p>昨年度まで会長であった磯部委員の再任。</p>
6	<p>会長職務代理者の選出</p> <p>大嶋委員を指名。</p>
7	<p>会長あいさつ</p> <p>会長よりあいさつ。</p>
8	<p>報告事項</p> <p>報告事項に入る前に机上配布資料2について宮川委員から説明。</p> <p>（1）ふれ愛タクシー事業の利用状況について</p> <p>資料3-1、3-2について、須藤統括主査から説明。</p> <p>安藤委員：利用者に偏りがあることや乗務員不足は課題と感じている。より必要な方へのフォーカスが大切であると思う。また、岩倉市はふれ愛タクシーの事業規模がちょうど良いと感じるので、事業の持続可能性についても考える必要があると思う。</p> <p>磯部会長：利用者が偏っている状況や、予約の取りにくさ、持続可能な取り組みについてどのように考えているか。</p> <p>事務局：利用者の偏りについて、乗車件数と実利用人数の比較により偏りがあることを把握している。現在の運用では回数制限を設けていないが、今後、新型コロナウイルスの終わりやデジタル化により利用状況が変わってくることも考えられるので、状況を見て、交通事業者と意見交換しながら、持続可能な事業として対応できる形で見直しを考えていきたいと</p>

思っている。今の形がベストとは思っていないので、状況に応じて、利用者も利用しやすく、事業者も運用しやすい形に見直していくことは必要だと考えているので、意見交換させていただきたいと思う。

予約については、名鉄バスと意見交換させていただいた際に、デジタルを利用した予約が進んでいくという話もあった。デジタルを利用した予約方法について、市独自で開発することは難しいが、民間の技術を利用させていただいて、可能な形でできれば、一緒になってやっていきたいと考えている。

大嶋委員：ふれ愛タクシーを利用して小牧市にある北里クリニックに行くことはできないと思うが、特例で認めてもらえると嬉しい。

磯部会長：現在の運行区域は市内に限られているが、境目で柔軟性が取り入れられるかということである。

事務局：北里クリニックについては名鉄バスが近くを通っているので、例えば、ふれ愛タクシーとバスの併用といった方法もあるかと思う。

市外への利用について、小牧市民病院、江南厚生病院、千秋病院など、特に医療機関関係への要望があることは把握しているが、ふれ愛タクシーは市内の運行という事業である。要望については交通事業者と意見交換しながら調整ということになると思うが、実現できるか否かは中々難しい部分もあるので、事業の見直しのときに検討していきたいと思う。

磯部会長：持続可能性のためには、利用者の変化や運営する会社の事情、市の財政状況など色々加味して、より良いシステムに変えられるのであれば変えていく、皆さんと一緒にやっていくことになると思う。

(2) その他

参考資料2について、宇佐見統括主査から説明。

磯部会長：委員から近況等の意見があればお伺いしたい。

大野委員：路線バスについては9割近く利用者が戻ってきている。会社としては100%に戻ることはないと考えている。岩倉市と一宮市を結ぶ路線は100%近く利用者が戻っている状況だが、岩倉市と小牧市を結ぶ路線は7割強ぐらいである。小牧市のこまくるを利用する人が多い。間内線については9割ぐらい利用者が戻ってきている。コロナ禍において、バスも減便しているが、利用者が増えれば減便も無くしていきたいと考えている。

安藤委員：安城市でタクシー業者の廃業があった。尾張地方においては、タクシー業者がすぐに無くなるということは無いと思うが、いずれは縮小していくのではないかと思う。一宮市、稲沢市は利用者がだいぶ戻ってきている。春日井市、小牧市、岩倉市はあまり利用者が戻っていない。名古屋市は戻ってきている。地域によって、利用者の戻りに偏りがある。

小林委員：貸切バスでインバウンド中心の会社は廃業したところもある。

伊藤委員：コロナ禍で従業員が減っている。コロナ禍の初めは募集しておらず、現在は募集をしているが、応募が無い状況である。

宮川委員：中部地方全体では8割ぐらい利用者が戻ってきている。鉄道も8割程度。都市部とそれ以外で偏りがある。

吉野委員：タクシー業者においては3月に運賃の値上げを行ったことから、経営の状況は良くなる方向だと思うが、完全に戻ることはないかもしれない。

磯部会長：鉄道も状況によって運賃を値上げし、適正なものとしていく方針もあるが、理解していくしかない。民間だけでどこまでできるのかということもあり、市民を助ける観点で自治体も政策を検討する必要があるかもしれない。

9 その他

参考資料1について、宇佐見統括主査から説明。

太田委員：この事業は継続して行う事業か。

事務局：新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した単年度の事業である。毎年行うとなると財政的な面から難しいかもしれないが、検討する必要がある。

宮川委員：manacaを配布した後、どのように使用されたかなどの傾向等を知るための調査は行ったか。

事務局：調査ができればその後の施策に展開することも可能ではあるが、補足は難しいと考える。

机上配布資料3について、小林委員から説明。

磯部会長：用意した議題は以上だが、他に無ければ終了とする。

上記のとおり、岩倉市地域公共交通会議の経過及びその結果を明確にするために、この会議録を作成し、ここに署名します。

令和5年7月24日

岩倉市地域公共交通会議

会長

磯部友孝

